

2020年度第3四半期決算

2021年2月3日

三菱商事株式会社

(将来に関する記述等についてのご注意)

- ・ 本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。
- ・ また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報、及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいようお願い致します。
- ・ 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

(本資料における留意点について)

- ・ 本資料における「連結純利益」は、非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する当期純利益の金額を表示しています。

2020年度第3四半期決算

	2019年度 第3四半期実績	2020年度 第3四半期実績	増減	2020年度 業績見通し	進捗率
連結純利益	3,733億円	1,691億円	▲2,042億円	2,000億円	85%
事業系	2,531億円	1,279億円	▲1,252億円	1,304億円	98%
市況系※	1,136億円	335億円	▲801億円	516億円	65%
一株当たり配当				134円	

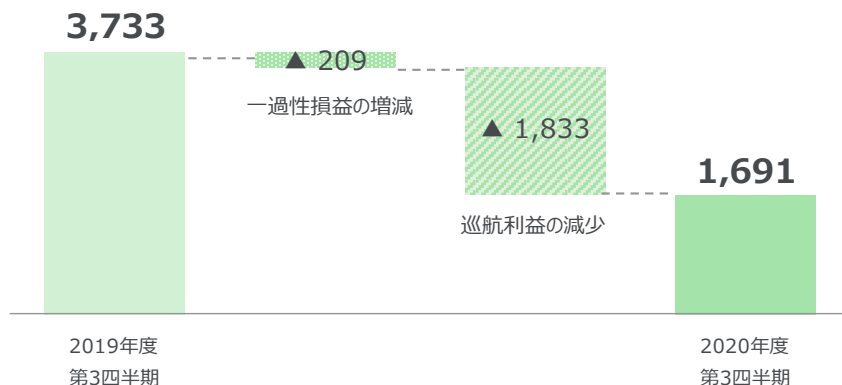
※「市況系」は天然ガスセグメントの内、北米シェールガス及びE&P、金属資源セグメントの内、トレーディング・インキュベーション関連以外、産業インフラセグメントの内、船舶（一般商船）を含めています。

<前年同期比の増減>

(億円)

◎ 連結純利益は前年同期比 ▲2,042億円の減益となった。

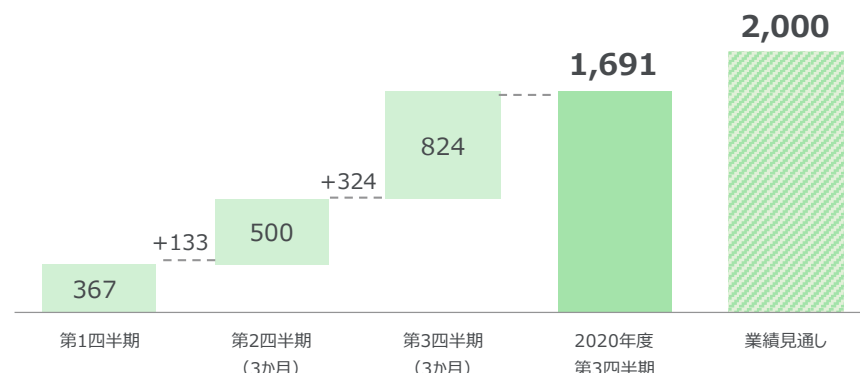
- ✓ 事業系は、前年同期に計上したシンガポールの原油・石油製品トレーディング会社における原油デリバティブ取引関連損失の反動があったものの、LNG関連事業や自動車関連事業などを中心に巡航利益が減少したことや、三菱自動車工業における減損損失等の取り込みなどにより、減益となった。
- ✓ 市況系は、豪州原料炭事業における巡航利益の減少などにより、減益となった。



<業績見通しに対する進捗>

(億円)

- ◎ 四半期（3か月）ごとの連結純利益は、着実な回復基調にあり、2020年度業績見通しに対する進捗率は85%となった。
- ◎ 第4四半期に、三菱自動車工業における構造改革費用の取り込みに加え、事業環境の変化等も慎重に見極めていく必要があり、予断を許さないことから、業績見通し2,000億円は据え置いた。
- ◎ なお、配当見通し134円は変更なし。

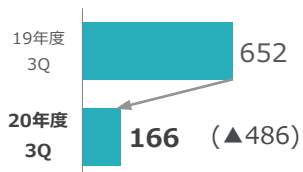


セグメント別の状況

連結純利益： 2019年度第3四半期 3,733

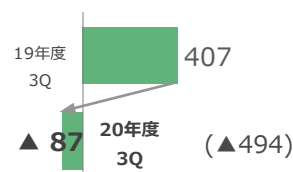
(億円)

2020年度第3四半期 1,691 (▲2,042：前年同期比)



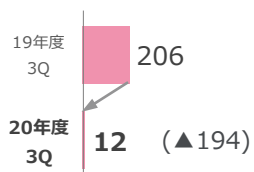
天然ガス (前年同期比 ▲75%減益)

LNG関連事業における受取配当金や持分利益の減少など



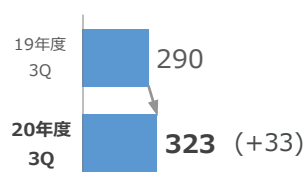
自動車・モビリティ

三菱自動車工業における減損損失等の取り込みや持分利益の減少など



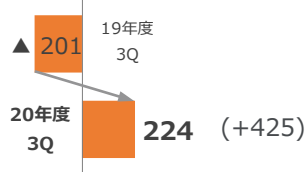
総合素材 (前年同期比 ▲94%減益)

鉄鋼製品事業における持分利益や炭素事業における事業利益の減少など



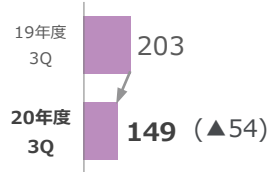
食品産業 (前年同期比 +11%増益)

食肉加工製造販売事業や海外食品事業における持分利益の増加など



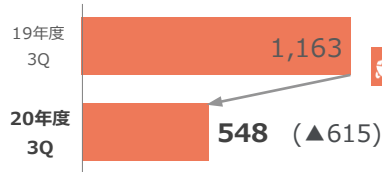
石油・化学

前年同期に計上したシンガポールの原油・石油製品トレーディング会社における原油デリバティブ取引関連損失の反動など



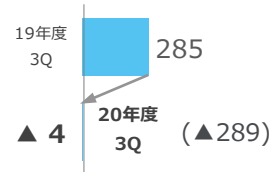
コンシューマー産業 (前年同期比 ▲27%減益)

CVS事業や海外アパレル関連事業における持分利益の減少など



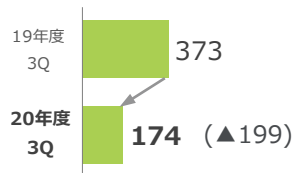
金属資源 (前年同期比 ▲53%減益)

豪州原料炭事業における市況下落による影響など



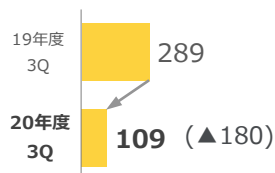
電力ソリューション

前年同期に計上した海外発電資産等の売却益の反動やオランダ税制改正に伴う繰延税金負債の積み増しなど



産業インフラ (前年同期比 ▲53%減益)

前年同期に計上した千代田化工建設子会社化に伴う一過性利益の反動、及び一般商船事業における一過性損失など



複合都市開発 (前年同期比 ▲62%減益)

航空機リース事業における減損損失等の取り込みや持分利益の減少、及びファンド評価損益の悪化など

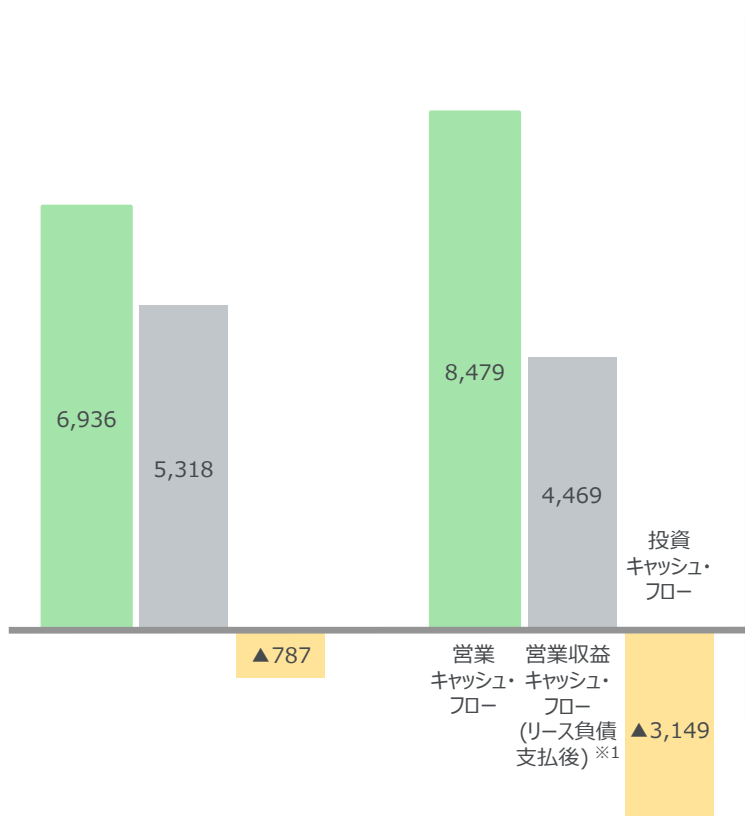
キャッシュ・フローの状況

2019年度
第3四半期

2020年度
第3四半期

【キャッシュ・フローの主な内訳】

(億円)



<調整後フリーキャッシュ・フロー※2>

+4,531

+1,320

参考	2019年度 (通期)	2020年度 第3四半期	投資CF			調整後FCF
			新規・更新投資	売却及び回収	ネット	
			営業収益CF (リース負債支払後)			
			6,721	▲10,514	5,507	▲5,007
			4,469	▲5,813	2,664	▲3,149
						1,714
						1,320

【2020年度第3四半期の投資キャッシュ・フローの主な内容】

新規・更新投資	売却及び回収
<ul style="list-style-type: none"> ・欧州総合エネルギー事業 (電力ソリューション) ・HERE Technologies社宛て投資 (その他) ・LNG関連事業 (天然ガス) ・豪州原料炭事業 (金属資源) ・北米不動産事業 (複合都市開発) ・銅事業 (金属資源) 	<ul style="list-style-type: none"> ・上場有価証券 (食品産業・コンシューマー産業など) ・北米不動産事業 (複合都市開発) ・北米シェール事業 (天然ガス)

※1 営業収益キャッシュ・フロー : 運転資金の増減影響を控除した営業キャッシュ・フロー (リース負債支払後)

(連結純利益 (非支配持分を含む) - 減価償却費 - 投資活動関連損益 - 未配当の持分法損益 - 貸倒費用等 - 繰延税金) にリース負債の支払額を反映したもの

※2 調整後フリーキャッシュ・フロー : 営業収益キャッシュ・フロー (リース負債支払後) と投資キャッシュ・フローの合計

【参考】市況の状況

【為替・商品・金利市況の状況】

	2020年度 第3四半期実績	2020年度 業績見通し※	増減	2020年度業績見通しに対する損益インパクト [油価・銅地金については、生産数量等により大きく変動する 可能性があるため、現時点での試算に基づく参考値を記載]
為替 (円/US\$)	106.11	105.94	+0.17	1円の円安/円高につき年間15億円の増益/減益インパクト。
油価 (ドバイ) (US\$/BBL)	48	47	+1	US\$1/BBLの上昇/下落につき年間25億円の増益/減益インパクト。 連結会社との決算期の違いやLNG販売価格への油価反映の タイムラグ等による当社の実績への影響に鑑み、6か月前の油価 (通期：10～9月平均)を記載している。 但し、油価の変動以外にも、配当性向、為替要因、生産・販売数量 等の複数の影響も受けるため、油価のみで単純に決定されるものでは ない。
銅地金 (US\$/MT) [US¢/lb]	6,364 [289]	6,680 [303]	▲316 [▲14]	US\$100/MTの上昇/下落につき年間13億円の増益/減益インパクト (US¢ 10/lbの上昇/下落につき年間28億円の増益/減益インパクト)。 但し、銅の価格変動以外にも、粗鉱品位、生産・操業状況、再投資 計画(設備投資)等の要素からの影響も受けるため、銅の価格のみ で単純に決定されるものではない。
円金利 (%) TIBOR 3M	0.07	0.08	▲0.01	取引利益や投資利益により金利上昇の影響は相殺される部分が相 当あるが、金利上昇が急である場合には一時的に影響を受ける。
US\$金利 (%) LIBOR 3M	0.35	0.35	±0.00	

※ 業績見通しは、通期平均価格を記載している。価格の推移を踏まえて、11/5に公表したものから修正している（油価は6か月前の油価を記載している為、確定値）。